



ロゴマークについて
物理・制度・文化情報・意識
の4つのバリアを超えること
を目指しています。



「小名浜港」で記念写真
本年9月29・30日の両日、台風が近づく中
「スバリゾートハワイアンズ 視察研修」を行
いました。協会初の一泊旅行でしたが、幸い予
定通り施設の探索といわき市内の津波跡の視察
を行うことができました。総勢11名での有意
義な研修旅行となりました。

彩の国バリアフリー協会だより

第10号

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋4-1-7 埼玉県産連会館 TEL 048-864-9313 FAX 048-864-9381 <http://sainokunibarikyo.web.fc2.com/>

広報誌発行にあたり

彩の国バリアフリー協会会長

戸井田秀明



日増しに秋も深まってま
いりましたが、皆様いかがお
過ごしでしょうか。

又、日頃から会の運営に御協
力をいただき、誠にありがと
うございます。

本年度も前半が終了し、1
年の時の早さを痛感する季
節となりました。

当協会も、設立後10年が
経過いたしました。設立当時
はバリアフリーという言葉
も誰もが口にし、多くの人達
が関心を持ち、仕事や生活の
中にその事を取り入れたい
と考へ、話題性の高い言葉と
して注目を得ていました。

それも今ではあたりまえ
になり、あえてその言葉を使
わなくても当然であるよう
な、又、そのことを呑みこん
でさらに大きく、ユニバーサ
ルデザインという言葉に変
わっています。

しかし、本当に、世の中バ
リアフリーがあたりまえに
なったのでしょうか。

先日、当協会にて、震災後

復興をはたしバリアフリー

にも対応できる施設をうた

っている、スバリゾートハワ
イアンズ（福島県いわき市）

の視察検証を行いました。

そしてその結果としては、
ホテル内の移動に対するス

トレスや、エレベーター等の

サインのわかりにくさ。床の

仕上げ材による車イスの動

きにくさ。スロープのきつさ。

車イス用トイレの少なさ。極

めつけは、「車イス対応でき

ます」というホテルマンに案

内されたトイレについてみ

ると、車イスでは入れなかつ

たというホテル側が使えな

いことを把握していない状

況でした。

又、一般の方が車イスを見

て、時間のかかることに対し

て、嫌な態度をとる、心のバ

リアも見受けられました。

悪口ばかりを言っている

ように思えるかもしれませ

んが、特に今回視察した施設

が悪い訳ではありません。他

をみても同じような状況か、

さらに悪い状況が多く見ら

れます。

まだまだ世の中、バリアフ

リーには程遠い状態なので

す。

それにも係わらず、関心だ
け薄れてしまっているのが
現状なのかもしれません。ま

だまだバリアフリーを推奨

する必要性を実感し、当協会

の活動が改めて必要である

ことに思いを寄せることが
できました。

もちろん、ホテル側に対し、

指摘すること、あるいは賛同

できることなど、細かく提案

することができました。

その後、震災から1年半が

経過した、いわき市平豊間地

区に足を運んでみましたが、

あの震災の爪あとが、今だに

そのままの状況で残ってお

り、復興の進んでいない状況

を、目の当たりにし、忘れて

はいけないだけでなく、まだ

まだ我々がやらなければな

らない事を、さらに考えなけ

ればいけません。

今回の視察の成果を見据

えて、今後も協会としては、

有意義で企画力のある提案

をしていけるよう、役員一同

努力してまいります。会員の

皆様、また、関連の皆様、御

協力と御指導、並びに御参加

をよろしくお願い申し上げ

ます。

又、今回の広報誌発行にあ

たり、御協力をいただいた

方々に深く感謝の意を申し

上げます。そして、さらに進

化していく為、今後とも、会

の発展に御協力いただきま
すよう、心より、お願い申し
上げます。

「平成24年度通常総 会が開かれました」

4月17日に通常総会が

with you さいたま

で開かれ議案は全て原案通

り可決されました。

役員改選が行われ、新役員

は次のとおり決定しました。

会長

戸井田秀明

副会長

佐藤啓智 (総務部担当)

栗林稔昌 (事業部担当)

稲垣雄二 (広報部担当)

理事

柴原美苗 (事業部担当)

寺田 修 (総務部担当)

高杉雄一 (広報部担当)

竹ノ谷敦夫 (事業部担当)

関根文男 (広報部担当)

斉藤哲 (総務部担当)

堀井はるな (総務部担当)

福重大輔 (事業部担当)

理事待遇

山本由佳 (総務部担当)

監事

武田敏彦

山崎由美子

注 山本氏については第3回

理事会にて承認されました。

また、設立10周年に当

り創立当初から会の運営に

貢献があった前会長栗田

氏・前副会長武田・山崎両
氏・理事柴原・稲垣両氏に感
謝状が贈呈されました。

「平成24年度理事会 が開かれました」

今年度から会場をさいたま新都心「東横イン」に替え、6月9日、8月4日に理事会が開かれました。理事の数も増え活発な議論が交わされました。



「新理事の自己紹介」 福重大輔



福重大輔と申します。理事は、川越市の障がい者施設で支援員をしています。私は、仕事で利用者さんと共に行動をしています。様々なバリアにぶつかります。物理的なバリアはもちろんのこと、心理的なバリアを強く感じます。街中を利用者さんと歩いていると、にらみつける視線を感じたり、否定的なことを言う声が聞こえてくることもあります。私は、物理的、心理的バリアフリーを目指して行きたいと考えています。

堀井はるな



抱負

はじめまして！

埼玉で育ち、埼玉でリフォームアドバイザーとして働き、休日も埼玉で過ごす堀井はるな23歳です。

埼玉県立大学在学時に助教授の紹介で栗林氏と出会い、現在に至ります。

関西の両親の実家、双方ともバリアフリー化している経緯があり、幼い頃からバリアフリーという言葉が身近にありました。

現在は企業でリフォームアドバイザーとして修行中ですが、営業力とフットワークの軽さ、現在まで広がって生きた人脈を活かしてバリアフリー協会の活動を進めていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします！

(編集より
今回紹介でき
なかつた新理
事については
次回ご紹介す
る予定です)



「高橋勇市氏の100」

理事 寺田 修



創立五周年の記念講演を行った高橋勇市氏（四十七歳）が、アテネ・北京・ロンドンと三大会連続してパラリンピック男子マラソン競技（視覚障害）の日本代表選手に選出されました。

先日開催された壮行会に参加し、好成績を期待していると激励してきました。同氏から「一年を重ねても、あきらめずに頑張れば夢が叶うことを実感しました。会の皆様にもよろしく。」との伝言をいただきました。九月九日の活躍をお祈りしています。

続報

九月九日午前8時にスタートしたロンドンパラリンピック視覚障害者マラソンで高橋勇市氏は2時間42分09秒でゴール、7位入賞されました。(編集)



特集 「スバリソート ハワイアンズ視察研修」

「研修旅行の感想」

理事 斉藤 哲



今回初めて参加した研修旅行が、宿泊の研修旅行ということで楽しく参加しました。

スパリゾートハワイアンズでの車椅子検証では、栗林さんの解説で多くを学ばせて頂きました。

特に何棟も繋がっている施設の為か、移動が大変で圧倒的に多目的トイレの数が少なく感じられました。

検証を進めていくと1フロアに1ヶ所もない棟もあり、移動範囲は限定されてい

たように思えました。

勝手なイメージですが、車椅子の方はフラダンスショーを見に来るだけの動線

で考えられている様にも見えました。

今後このような検証を行い実情を発信していけたらと思っています。

「見つけよう、行動しよう、今更には遅くない」

理事 寺田 修

人が住み、人々が暮らすことで街が成り立っていることと、自分にできる何かしらの支援を継続していかねば、と再認識させられた研修でした。「見つけよう、行動しよう、今更には遅くない」と

心に留めて、東北の物産品を購入、食することで被災地を含めた東北の地場産業の活性化につながるように、長く無理のない支援をして行こうと思っています。

「視察研修に参加して」

理事 関根文男



9月29日-30日、スパリゾートハワイアンズに於ての、初めての研修に参加して、大変勉強になりました。障害者の為の施設について

日頃あまり関心を持たずに、あたりまえに考えていましたが、先輩の栗林さんの車イスでの説明で、あらためて、障害者用の施設に、不備な所が大変多い事を認識しました。私達も障害者施設的设计、工事に当って、實際障害のある方から意見を聞く事がいかに大切かを改めて感じた所であり、すばらしい研修会になりました。



フラダンスショーを皆で鑑賞



市場での買い物



よく食べ、よく飲みました

思います。「バリアフリーとは」を常に意識した物の見方が出来て、私自身も勉強になりました。今回の検証を次に繋げるべく、今後も活動を通して何か発信できたら幸いです。

・被災地視察

一年以上経過した被災地、『何もない』からこそ伝わる悲壮さが痛かったです。

ここに住んでいた人たちは今どこにいるのだろう、どんな思いでこの瓦礫を撤去したのだろう・・・。

報道番組などで見る映像と実際に目の当たりにするのはこんな違いがあるのかと、海のない埼玉で過ごす私は平和ボケしていたなと思いました。

復興とは、何をもって復興といえるのか。ただ見た、視察しただけでは終われないなど感じました。

何かできることを、探そうとあの日から強く考えています。

「何が出来るか」を探そう
理事 堀井はるな
・スパリゾートハワイアンズの施設内検証
【バリアフリー】とは何をもちて言うのか、改めて考えさせられました。



浴室部分だけが残された住宅跡

「スパリゾートハワイアンズ検証会」

理事 竹ノ谷 敦夫



検証会に参加して、福重さんにお聞きした話です。東京デイズニerland(以下TDL)は障害がある方も通常の料金です。普通の人と同じくらい楽しんでもらえるように施設、サービスが行き届いているから、と言うのです。

確かにTDLに行くことと食事がいまいちだとか、お酒が飲めないとか細かい不満はありますが、全体としては高い満足感で帰途についたことを思い出しました。サービスを受ける側の立場に立った運営をしているのだと思います。

さて、今回は復興してまもないスパリゾートハワイアンズ(以下SRH)のバリアフリー検証です。検証の結果については他の方の記事に詳しくあると思いますので、そちらをご覧ください。ここでは私が参加して感じたことを書きます。とてもきれいで(ホテル)、充実した施設、親切丁寧な対応で良い施設でありました。

建築物のバリアフリーに関しては、法律、条例で定めがあります。大切なのは、ユーザーの立場に立って設計すること、また、どのようなユーザーを想定するかだと思います。たとえば、ホテルであればどのようなホテルなのか(ホスピタリティ)のソフトと施設(建物)のハードの両方が密接に関係しているはず。であれば、法律を守るだけでは最適な設計はできないですね。そこで、TDLの話なのです。

SRHは傾斜地に建つ、増築を繰り返した施設ですので、根本的に導線、レイアウトの問題を持っています。いろいろと考慮されているとは思いますが、難しい点もありました。バリアフリーを謳うには、もう少し運用面を強化する必要があると感じました。

地震・津波に襲われた東北地方にあって、いわき市のSRHは復興のシンボル。ダンサーを始め従業員の皆さんの頑張る姿に感動しました。これからもっと良くなると思います。がんばれ、福島県!

とても楽しい交流もあり、大満足の検証会でありました。ありがとうございました。



右からショーを観覧する車椅子専用スペース・館内を車椅子で探索する参加者

「協会の今後の目標」

会長 戸井田 秀明

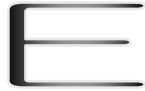
協会設立から10年目を迎えることとなりました。これもひとえに、会員の皆様並びに関係各者の皆様の御協力と、深く感謝する次第です。

現在の会は、総務部、広報部、事業部の3部構成で運営しております。

総務部では、会員相互のコミュニケーションと他団体との交流を重点とし、広報部においては、広報誌発行と外部へのアピール活動を行い、事業部では、情報収集、施設検証、勉強会、相談会の企画を行っております。

その中での活動運営は、会員の皆様による会費が収入源となっておりますが、一部の未納である会員の為、会の運営に支障をきたしている状況が続いています。バリアフリー化が進んでいない状況を、もっと多く知っていただき、改善しなければならぬことを数多く学んでいただく為、色々と企画をねってはいますが、関心が薄れてきているのが現状のようです。

今まで当協会の会員は、建築関係者が大きく割合をしめていました。一昨年度あたりから、色々な分野から入会者が集まりはじめ、今年度



には若い力が役員の中に加わり、特に女性メンバーも増え、多彩な意見が飛び交うようになってまいりました。視野を広げると、まだまだ物理的にも心理的にも、世の中にはたくさんさんのバリアが残っています。

手すり1つにしても、設置されているだけで、本当に使える位置にあり、意味をなしているものは、ほんのわずかでしかありません。物が出回っても、人が思いを変えなければバリアはあり続けます。

なぜこうする必要性があるのか、なぜこの位置ではダメなのか、なぜを迫及しない物を作っても、無駄なもので終わってしまう、そこに存在する物の意味と、そこに生まれる心のバリアを人が感じて、人が行動して始めて、バリアがフリーになっていくものだと思います。世の中、まだまだバリアだらけです。気が付かないだけです。

物理的なバリアと心のバリアが無い街づくりを目指して、声を大にして、もっともっとと関心を持って、バリアフリーを考えていただければ、当協会は進化を続けていきたいと考えています。



バリアフリー

関連の記事から

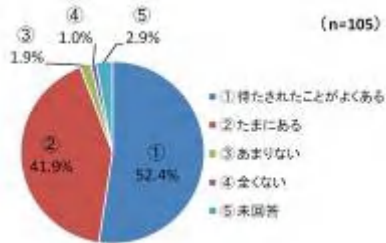
（記事の続きを読みたい方はタイトルをインターネットで検索してお読み下さい。リンク切れて読めない場合があります）

誰もが不便な「だれでもトイレ」

車椅子のまま入れる広い空間、着座や立ち上がりに便利な手すり、乳幼児のおむつ替えができるベッド……。こうした様々な設備を持つ多機能トイレが増えている。誰もが気軽に使えるようにと、「だれでもトイレ」などと呼ばれる場合もある。

2006年12月に施行したバリアフリー法では、オストメイト（人工肛門などを付けた人）用の設備の導入も義務付けた。病院や百貨店、ホテル、老人ホーム、駅や空港などの旅客施設といった不特定多数の人が利用したり、高齢者や障害者が利用したりする施設が対象だ。ところが近年、1カ所の多機能トイレに様々な設備を詰め込んだことで、高齢者や障害者、子供連れなど幅広い利用者が集中。使いたい時に使えない事態が起こっている。

国土交通省は11年11月から12月にかけて、車椅子を使う105人にアンケート調査を実施した。その結果、半数以上に当たる55人が「多機能トイレで待たされたことがよくある」と回答。「待たされたことがたまにある」と答えた人を合わせると、全体の94%に達した。やむを得ず待たされた際、しばらくして多機能トイレから出てきたのは「子供連れ」だったという回答が最も多かった。



ケンブラッツ
2012年8月22日

スマホ使って色が見えなくなった 色弱の人向けにアプリ開発

国内に約300万人いるとされる「色弱」の人が、もの

を見るのを助けるスマートフォン（多機能携帯電話）用の無料アプリがある。2年前に公開された「色のめがね」で、ダウンロード数は1万2千件。「色ありがとう」。開発者には、そんな声が届いている。

スマホのiPhone（アイフォン）にインストールし、カメラを対象に向けると明るさと色合いが瞬時に画像処理され、色弱の人には見分けにくい色が、区別しやすい色に変化する。

交通標識などが見やすくなるほか、痰（たん）や便に血が混じっていても見分けにくい人が病気に気づきやすくなる効果もあるという。逆に、一般の色覚の人が色弱の人の見え方を理解するための「色のシミュレータ」というアプリも作った。



一般の人に見える画像（上）と色弱の人に見える画像（下）
朝日新聞
2012年6月13日

編集後記

「研修」では栗林さんと同室になりより深く教えていただきました。



宿泊したユニバーサルルームのプラン

す。今思えば朝食時に車椅子体験するのも一案でした。東日本大震災の傷跡はまだ完全に癒えていませんでしたがフラガールが戻ってきたように復興は着実に前進するでしょう。人々の営みは力強いと実感しています。今年はおリンピックで沸き、またその後行われたパラリンピックで今まで目にしたことのない競技を見る機会があり障がい者スポーツの広がりを実感した年でもあります。

寄稿していただいた皆様ありがとうございました。斉藤さん堀井さんには写真を提供いただき適宜使用させていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

バリアフリー関連のニュースその他ございましたら左記メールアドレスまで名前・連絡先明記でお知らせ下さい。この広報誌を会員の皆様との情報交換の場としたと思います。



(y_kinag@ybb.ne.jp)
広報担当 稲垣

混雑した朝食バイキングは健常者でも大変な作業で

